

Title	三田史學會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1956
Jtitle	史学 Vol.29, No.1 (1956. 5) ,p.110- 112
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19560500-0110

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

であるから、彫刻開始を閏四月十日から約四月前、即ち一月始め乃至十二月末とすれば、翻譯を終り、板木屋と交渉したり、或は版下原稿を書かせたりする時間を考へて、さ程不適當でない様に思われるのである。

即ち前記四月十日附の書翰は閏四月十日の書翰であり、西洋事情外篇は、慶應三年十二月に原稿が出来て題言が記され、書店、出版屋との交渉があつて、十二月下旬か一月初より版木の彫刻に取かゝり、五月に一應完成したと見た方が、順當である様に思へる、したがつて、四月十日は閏四月十日の意味であらうと思われ

彙 報

三田史學會例會報告

第四三四回例會 昭和三〇年六月二十九日 於演說館

近代と東洋

山本達郎氏

第四三五回例會 昭和三〇年九月三〇日 於二三番教室

ハシアバード

渡邊 宏君

第四三六回例會 昭和三〇年一〇月二十六日 於四〇番教室

オスマン社會層位とタンジマート

三橋富治男氏

能狂言の諸問題

太田次男氏

第四三七回例會 昭和三〇年十二月二日 於三十二番教室

奄美大島の文化

宮本延人氏

初期フランスクに於ける理想と學問

坂口昂吉君

第四三八回例會 昭和三〇年十二月一四日 於演說館

青森縣宇鐵遺跡の調査

清水潤三氏

先史時代の葬制について

宍俊太郎君

第四三九回例會(卒業論文發表會)

昭和三十一年一月二七・二八日 於一二番教室

國史

日吉彌生式堅穴住居址群の研究

—昭和三十年新發見の堅穴を中心として—

有居 俊君

日本文化史上における飛鳥文化の意義

土井義人君

島原亂に關する考察

藤井浩一君

徳川時代に於ける農民一揆に就いて

福田利昭君

徳川幕藩體制崩壊に對する一考察

—主として財政經濟上から—

橋本正文君

守護地頭の設置に依る莊園制の變賢

堀 卓夫君

宿場町品川についての一考察

市川博保君

和紙の歴史的變遷

石田洋二君

明治維新と水戸學精神

石川道敏君

大阪商人

北畑 實君

古代及封建社會に於ける浪人の發生原因について

松江壽太郎君

出雲神話の特殊性

三橋壽恵子君

江戸時代の八丈島に於ける人口食糧問題とその対策

宮城 勇君

米價政策としての常平倉について

三宅 良君

戰國時代の井伊氏

新野雄二郎君

我國石器時代に於ける人工的齒牙の變形について

西野義隆君

日本上代の甕棺葬

帛俊太郎君

院政の成因について

佐熊富美子君

解剖學の勃興

佐藤熾子君

庶民金融機關としての質屋の變遷について

竹上和志君

江戸時代の町人道德

瀧澤雅夫君

江戸時代に於ける農業と農民に課せられた税

館上眞澄君

秀吉死後の政治情勢

土田健三君

近世江戸上方間の海運について

吉原秀雄君

東洋史

北日本の獨木舟に見られる周邊諸文化の影響

賀来壽一君

裏日本の獨木舟に見られる東南アジア的要素

中村 勇君

朝鮮の役中の平壤戰役と南海戰役に就いて

西島直之君

吳越國小考

西洋史

カリグラと東方帝王思想

井田基子君

フランススコ會に於ける理想と學問

坂口昂吉君

財産所有に關するトマス・モアの見解

安田洋治君

ジャン・ボーダンの政治理論の時代史的考察

川村美智子君

シュレーシェン麻織物業の特異性

東畑隆介君

ジャン・ジャック・ルソーの一考察

栗原紀子君

フランス革命と外國人

鈴木房子君

一七八九年より九四年までのフランス革命とロベ

スピエールに關する一考察

西原英治君

英國に於ける鐵道の發生について

橋本潤治君

英國對印度政策に於ける東印度會社の暴政

泉谷宜治君

英國婦人參政權問題

瀬川彌子君

フランスの對普宜戰布告に對するイギリスの態度

柏村浩之君

アイルランド・シンフェンの我立過程

杉上昌幸君

産業革命以後に於ける紡績業とその現況

山下和男君

英國勞働組合法化運動

川村 宏君

第三共和制成立過程に於けるドレフュス事件

森きわ子君

英國帝國主義下に於ける占度民族の覺醒

久本省二君

ジャクソニアンデモクラシーの成立とその背景

椎木輝實君

アメリカ資本主義に於ける南部プランテーション

堀越惇生君

モンロー主義について

山本榮一君

フィリッピン獨立問題に關する一考察

大坪大學君

——主として十九世紀末の特異性——

錢谷 功君

門戶開放に於けるジョン・ヘイ

——特に内外購買力について——

花井幹治君

アメリカ金融寡頭制に於けるJ・S・モルガンの地位

佐藤博美君

アメリカ人民黨の成立要因

柳坪 進君

英米新聞に現れた封建時代の日本人觀

——幕末遺外使節を中心として——

小林雅子君

明治二十年七月二十九日附

福澤一太郎宛福澤諭吉書翰(未發表)

日本は大暑之時節ニ相成日々苦熱其地は如何今年はボーストン

江參るとハ先便ニ捨より申來候暑中之休課ニ至極宜敷事と存候

今便も貴様ハ手紙を贈らず或は氣分あしき杯之義ニは無之哉様

子承り度候

捨次郎之手紙ニ抛れバドクトルヨシモンハンス氏ハ隨分六ヶ敷事を

申すよし是れハ致方なき次第なれとも自分ニ不平を呑んで人之言

ニ服するニも不及事之利益と判斷出來候ハハ、颯々と獨斷ニ行ひ可

申遊學中俗事ニ心配するより損なるハなし決して他人ニ氣兼ねする

ニ不及正しく自己之路を行き可然存候

ドクトルシモンズ氏ハ當月初より北堂と共ニ日光ニ在り昨今一

寸出京今日も宅へ止宿致居候米國公使夫人ハ過日日光ニ而死去醫

師ハ重もニドクトルシモンズ氏なり誠ニ氣之毒之事ニ候

桃介ハさなた虫の長きもの出たるよし是れニ而根治と存候

留守宅ニ御者あり金之助と云ふ宇都宮近傍之者なり此者の祖母

ハ當年百二藏ニ相成今尙屆強之よしニ付先日金之助を日光ヘドク

トル之見舞ニ遣したる序ニ祖母をも尋問致させ其節衣類など遣し

甚々悦ひたるよし隨分長命之人もあるものと存候

本塾ハいよいよ、當秋より數學語學之專門課を設る積り新聞紙之

方も殊之外忙しく來年ならば貴様方兩人も一度ひ歸國其上ハ拙

者を補助して少しハ閑ニ可相成と夫れのみ樂しみ居候拙者も養生

ハ怠らず相待候貴様も同様よく運動して屆強偉大なる身體を父母

ニ見せ候様心掛ケ度事ニ候

右相替義も無之候得共平安之一信如此候也

二十年七月二十九日

諭 吉